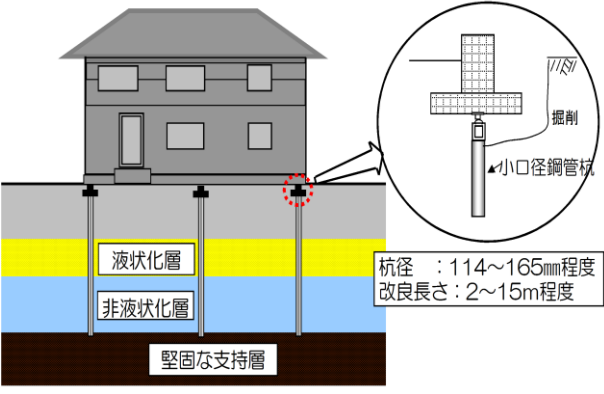
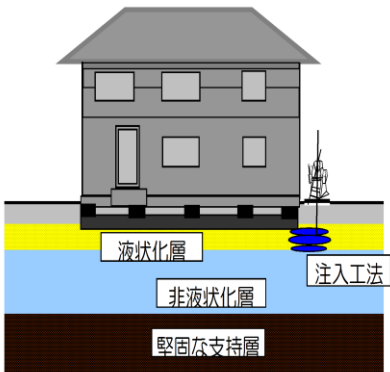


工 法 名		ポイントジャッキ工法	耐 圧 版 工 法		
工法のイメージ図と概要					
	<p>基礎の一部を切り取り、土台の下に爪付きの油圧ジャッキを挿入した上で、ジャッキアップし建物の傾斜・沈下修復を行う工法です。プッシュアップ工法とも呼ばれます。</p>		<p>基礎の下を掘削し、仮の受け台を設けて建物の柱荷重を受け止めて良質な地盤面の上に鉄版とコンクリートから成る耐圧版を施工し、油圧ジャッキでジャッキアップして建物の沈下を修正する工法です。</p>		
対策のねらい	<p>べた基礎・布基礎などの直接基礎の沈下の修復（建物の傾斜修復）をするものです。</p>		<p>べた基礎・布基礎の沈下の修復（建物の傾斜修復）をするものです。</p>		
メリット	<p>建物の沈下修復は比較的簡便に修復できます（再度修復する場合も比較的容易に対応できます。）。</p>		<p>建物の沈下修復は比較的簡便に修復できます（再度修復する場合も比較的容易に対応できます。）。</p>		
デメリット	<p>液状化層が残っている場合は、再液状化が発生した場合の沈下防止にはなりません。</p>		<p>液状化層が残っている場合は、再液状化が発生した場合の沈下防止にはなりません。</p>		
騒音振動	<p>大きな重機は使用しないので、騒音振動は小さい。</p>		<p>大きな重機は使用しないので、騒音振動は小さい。</p>		
対策深度の考え方					
既存住宅	施工性	<p>小型の機械で対応可能ですが、建物の脇など狭い場所での工事となるため施工性はあまり良くありません。</p>		<p>小型の機械で対応可能ですが、建物の脇など狭い場所での工事となるため施工性はあまり良くありません</p>	
	工期	<p>3～5週間程度</p>		<p>3～5週間程度</p>	
工事費 注)	<p>200～300万円程度</p>		<p>500～700万円程度</p>		
備 考			<p>ジャッキで沈下を修正した後に、地盤と建物基礎の隙間に収縮しないグラウト材（セメント系）を注入して住宅を基礎ごと元に戻すようにします。</p>		

アンダーピニング工法	注 入 工 法
	
<p>沈下量の低減を目的とし鋼管杭を回転貫入又は圧入によって設置し、その杭の支持力を利用して既存の建物の荷重を支え補強する工法です。</p>	<p>基礎下ヘグラウト（空洞、空隙、隙間などを埋めるために注入する流動性の液体）や薬液（セメントミルク、モルタル、水ガラス系）等をボーリングマシンなどで注入する工法です。</p>
<p>建築物の沈下・変形を修復するものです。</p>	<p>地盤の強度を増大し、沈下を一定程度修復するものです。</p>
<p>液状化の発生した場合でも建物の荷重は杭で支えられることになります。再度の液状化にも対応可能です。</p>	<p>狭小地での施工、斜め施工が可能です。</p>
<p>液状化の発生を防止することはできないため、建物と周辺地盤との間に段差が生じる場合があります。杭材料は、柱状改良体より極端に細長いので、折れ曲がりに対する配慮が必要です。</p>	<p>他の工法と比較すると材料費が高くなります。</p>
<p>静的圧入又は回転圧入する場合、騒音振動は小さくなります。</p>	<p>騒音振動は、小さくなります。</p>
<p>N値10~20程度の値となる深さまで（深度20m程度以内）施工が可能です。</p>	<p>液状化層の下端付近まで対策することになります。</p>
<p>建物の脇など狭い場所の工事となるため施工はあまり良くありませんが施工が可能です。</p>	<p>既存住宅の基礎直下の地盤にも適用できます。</p>
<p>1~3週間程度</p>	<p>1~2週間程度</p>
<p>600~1000万円程度</p>	<p>300~600万円程度</p>
<p>基礎下を掘削し、短尺の鋼管を圧入するジャッキアップの反力の杭として利用することになります。</p>	